

第64回全国植樹祭鳥取県実行委員会設立総会 議事録

日 時 平成22年6月28日(月)午後1時30分～2時40分

場 所 ホテルモナーク鳥取「仁風の間(西)」

【開会挨拶】

○平井知事

- ・昨今、環境や緑化について世間の関心が非常に高まってきており、全世界が、緑の大切さについて、今更ながらに認識を深めているところ。
- ・このような大きな潮流の中で、鳥取県は第64回全国植樹祭を実行する手を挙げさせていただいた。昭和40年の第16回鳥取県大会の開催以来48年ぶりで、半世紀に一度やってくる大きな大きな行事だ。
- ・先だって開催された、全国豊かな海づくり岐阜大会には、天皇皇后両陛下にもお目見えをいただき、鳥取の話題なども話させていただいたところ。植樹祭に向けても関係者の期待は高まっているというように感じている。
- ・このほど、鳥取県でもJ—VERを取得し、国の認証を取り、CO2の吸収源として森林を活用することが認められた。当県の第1号は、日野町板井原の県有林となる。
- ・また、最近では、林業に生業を求めて移住すらしてこられる方が増えてきている。乾しいたけ栽培についても、先だっでの全国大会で準優勝を獲得する程、大変力を付けてきているような流れがある。
- ・更に、観光や環境関係の活動と併せて考えると、鳥取県が、色々な素材に溢れた森林県であることを、私たちはもう一度、この大会を通じて認識をしたいと考えている。
- ・これまで、準備委員会の方でずっと準備を重ねていただいたが、大会開催まで3年と迫ったからには、我々も、ここできちんと旗を立て、関係者の皆様にも一同にご協力を求めて力強く推進していく体制を作りたいと考えている。
- ・この「全国植樹祭」が皆様にとって思い出に残る大会となり、観光や食のみやこなどの魅力発信に大きな役割を果たす様、切にお祈りを申し上げているところ。
- ・これから始まる「全国植樹祭」に向けた準備に格別のご協力を賜りますようお願いする。

【全国植樹祭の概要】

- ・事務局が、第60回福井県大会の映像で、全国植樹祭の概要を説明

【実行委員会の設立】

- 1 設立趣旨
- 2 組織(案)
- 3 第64回全国植樹祭鳥取県実行委員会会則(案)

- ・原案どおり承認

【議事】

1 第64回全国植樹祭の開催候補地(案)について

- ・事務局案(準備委員会での検討結果第1位および中部地区での全国林業後継者大会開催)を提示
- ・開催にあたって、主催者への、全県的に十分な協力体制を敷くことを前提として、原案どおり承認

[委員からの意見]

○岸田委員(鳥取県林業研究グループ連絡協議会長)

- ・中部地区は林業研究グループ会員が少数。全国林業後継者大会の運営スタッフが十分確保できるのか心配
- ・全国林業後継者大会参加者の宿泊地や、翌朝の大会開催地への移動手段の確保が心配

○鹿田委員(鳥取県農林水産部長:前準備委員会委員長)

- ・後継者大会開催にあたっては、過度の負担を地元の方に強いることはしない。
- ・植樹祭開催地への移動等のアクセスは先催県の事例を調査。移動用バスの手配を充分確保できる体制で臨む。

2 専門委員会の設置(案)について

- ・原案どおり承認

3 平成22年度事業計画(案)について

- ・原案どおり承認

4 平成22年度収支予算(案)について

- ・原案どおり承認

【その他】

- ・事務局が今後の実行委員会開催等のスケジュールについて説明

[委員からの意見]

○常田委員((財)日本きのこセンター理事長)

- ・今年10月COP10(生物多様性会議)の名古屋開催をきっかけに、地球環境保全問題に加えて、生物多様性の問題や、それに対して森林の果たしている役割、問題点等クローズアップされてくと思う。
- ・鳥取県から広く全国や世界に発信する大会趣旨からして、環境問題等生物多様性の問題も合わせて鳥取県大会を行う好機と考える。

○藤原委員(鳥取県山林樹苗協同組合理事長)

- ・植栽樹木の決定が10月では遅い。8月中に検討結果が出れば、種の採取や確保が容易

○古川委員(鳥取県森林審議会会長)

- ・鳥取県は全国に誇れる古代文化発祥の地。妻木晩田遺跡・青谷上寺地遺跡等を支えたのは木の文化。すばらしい文化を支えた古代の森に続くような森づくりも開催理念に入れてほしい。そうした誇りうる森を持った私たち県民として、心癒される森づくりができれば良いと思う。

○佐野委員(鳥取大学教授)

- ・同じ樹種の遺伝子を比較すると、地域的にはかなり違うということがわかってきている。植栽樹木の決定に当たっては、そのことも考えて、生物多様性に配慮していかなければならない。
- ・生物多様性の観点に加えて、森林がどれくらいのCO₂を吸収しているのか、地球温暖化防止に貢献する森林のCO₂吸収量という観点も入れたほうが、より教育的なものになると思う。
- ・天然更新可能な場所ではその樹種を生かし、更新が難しい場所や樹種では、植樹や、種を蒔いてやって、人間が補助することにより、森林を作っていくという考え方を入れた方が良い。

○粟嶋委員(とっとり環境ネットワーク代表)

- ・COP10(生物多様性会議)のテーマは、種を守るということ。加えて文化、言葉、色々な医学的効果等を後世に伝えていく、さまざまな討議がなされると思う。大会においても、全体的にそういう生物多様性に鑑みたことを取り入れるのが一番良いのではと思う。

【閉会挨拶】

○小谷副会長(鳥取県議会議長)

- ・全国植樹祭は、国民の皆様にも、森林がどれだけ大切かを広める重要な場であると同時に鳥取県のすばらしさを発信するよい機会でもある。平成 23 年の全国海づくり大会にも県外からお客様に来ていただき、続いて 25 年度の全国植樹祭にも来ていただくということになると、観光面に加えて、活性化にもつながるものと思っている。
- ・県民こぞって一致協力し、この大会が本当に良かったと、また鳥取に来たいというような思いを言っていたく事が重要
- ・今後とも協力いただき、有意義な会議にすることを願います。